「開発と先住民族」（総論と問題提起）

岸上伸啓（民博）
共同研究会「開発と先住民族」
2005.10.8

（１）はじめに

１．「開発」から「協力」へ、「援助をされる側」から「開発への参加」

1950～1960 年代　西欧化･近代化論（物質的な豊かさ、政治的安定、個人の自由）

1970 年代　リベラルな開発論（Basic Human Needs の確保）

1980 年代　第三世界の独自の基本的ニーズの確保＋草の根レベルの開発実践

＊1950 年代から 1960 年代にかけて従属論による近代化論批判

「第三世界の貧困や低開発化の原因は先進国の発展の結果」

２．協力の潮流：工学的な援助協力から質的な援助協力へ

「貧困削減」（世界銀行､1990 年）:貧困層への経済機会の提供促進と確実な社会サービスの提供、適切な資本移転、社会安全網の整備

「人間開発」（UNDP、1986 年）：「人間の選択を拡大する過程」、開発の目的は、人間が長く健康に創造的な人生を享受できる環境を整えることである。

「社会開発」（国連社会開発サミット､1995 年）：人間の自助自立と社会正義の実現。

「持続可能な開発」（World Commission on Environment and Development 1987）：将来の世代が自らの必要を充足する能力を損なうことなく、現在の必要を満たすような開発。

「参加型開発」､「ジェンダーと開発」､「エンパワーメント」､A･センの「潜在能力 capability の開発」（選択肢の拡大）

３．JICA と緒方貞子　「人間の安全保障」

「人間の安全保障」：国家の保護のみに依存することなく、人間の生存・生活・尊厳を脅かす紛争と貧困、環境破壊、エイズなどの脅威を取り除こうとする試み。

４．日本における文化･社会人類学と開発問題

人類学者は、中立的な立場をとり、開発にあまりかかわらない傾向がある。

（２）開発と人類学

１．植民地応用人類学：統治の手段、スムーズな文化変容の促進

マリノウスキーの応用人類学、日本の満州・台湾経営と人類学

２．開発人類学：人類学が具体的な開発プロジェクトに積極的に関与する立場
　社会や文化の専門家としての人類学者。人類学的な知見や情報を具体的な計画の実施に役立てる。「文化の仲介者」である。

(1)分野：農業、畜産、水産、林業、土木、金融、保健・医療、教育、観光
１．革新の導入･普及、２．組織化、３.コミュンティー・デヴェロップメント(住民のニーズ、問題解決における主体性の強調)、４．移住・住民移転

(2)人類学者の５つの役割（Erve Chambers 1985）によると、
１．代弁者的な役割(representative role)：ヤノマメを代弁したシャニョン
２．促進者的な役割(facilitator role)：政策実行のコンサルタント
３．情報提供者的役割(informant role)：政府などに情報を提供する
４．分析者的役割(analyst role)：コーネル大学のアンデス高原の農業改革
５．仲介者的役割(mediator role)：利害関係者や当事者間の間を取り持つ

３．開発の人類学（開発計画民族誌）：開発現象の人類学的な解明、政府による開発計画を研究対象とし、人類学的に分析する立場。例、Robertson(1984)の研究
(1)制度としての開発計画（象徴体系）がもつ構造とそれが生み出される過程の分析
(2)開発計画の具体化における官僚組織や農民組織、協同組合、コミューンの組織化の分析

４．開発言語アプローチ：２や３とは異なり、第 3 世界の貧困や開発、発展を実態としてではなく、言説としてとらえる。なぜ開発が蔓延し、みながそれを望むかを描き出す。
「開発」と歴史的に構成された言説の束として捉え、歴史的に構成されてきた世界の見方として分析。開発の脱構築。
(例)開発についての強力で説得力のある言説である「貧しい低開発国バングラデシュ」といった描き方を分析する。

５．公共人類学・行動人類学の展開
最近では、応用人類学という概念は使用しない傾向にある。
公共人類学(public anthropology, public interest anthropology)：学界と市民社会を交差させ、現代社会問題を検討し、問題解決をはかる人類学
行動人類学(anthropology in action)：健康問題、社会問題、教育、組織変動、開発などといった実践と政策の現代的な諸問題を研究する人類学　（ソール･タックスは調査と実践を融合した自らの方法を action anthropology と呼んだ。）

開発は介入行為である点、開発は社会変化の一部となる点。文化人類学の社会的活用。

（３）先住民族と人類学

１．「先住民族」と「少数民族」

国際労働機構 169 号条約

(1)国民社会から社会的、文化的もしくは経済的に区別され、慣習法や伝統によって地位が規定されている民族集団(1 条 1 項 a 号)、(2)植民地時代にその国の領土内に居住していた人々の子孫であるために原住者とみなされ、現代においても社会的、経済的、文化的および政治的制度を保持する民族(同 b 号)。

世界銀行

国家の主流社会とは異なる文化的・社会的アイデンティティを保持しているために、開発に際して不当な取り扱いを受けているおそれのある人々

２．　先住民族と開発問題

＊被開発問題：開発を被ることにより特定の者のアイデンティティが抑圧されるもしくは実害を被るという問題。

＊先住民族の開発援助プロジェクト

３．　先住民の諸権利

オーストラリアやカナダ、米国、ニュージーランドにおける先住民諸権益問題の処理。

（４）民博プロジェクトと開発研究の現状

１．松園館長の提言

・開発援助を人類学的に研究すること

・開発援助に人類学的な知見を活用できはしないか。

２．開発に関係する共同研究会

２－１　鈴木紀代表　「開発援助の人類学的評価法」

２－２　林勲男代表　「防災に関する人類学的研究」

２－３　小長谷有紀代表　「モンゴル高原における環境保全型経済の構築」

２－４　波平恵美子代表　「健康・医療・身体・生殖に関する医療人類学の応用学的研究」

２－５　松本博之代表　「沿岸水域利用社会の変容―海洋環境保全と参加型開発」

２－６　森茂岳雄代表　「国立民族学博物館を活用した異文化理解教育のプログラム開発」

３．機関研究「文化人類学の社会的活用」
「文化人類学者は世界各地において長期にわたるフィールドワークを実施し、現地社会に関する知識を蓄積するとともに、現地社会との間で密接な社会関係を構築してきた。この課題では、文化人類学者によるフィールドワークとその成果、人類学的な知見・視点などが、国内外の社会や経済、医療、教育、文化、人口、資源などに関わる諸問題の解決を図るうえでどのように活用することができるかを検討する。また、政府機関やＮＧＯによる開発援助が現地社会に及ぼす諸影響の調査や開発現象自体の研究、援助機関を対象とした研究も重要なテーマである。」

岸上伸啓代表「日本における応用人類学の展開のための基礎的研究」
「欧米では、文化人類学者が政府の開発援助機関や営利企業において人類学的な知識を活用しながら活躍している。一方、日本の文化人類学は、欧米とくらべると応用研究や実践的な側面の展開がたち遅れている。ここで提案する研究は、そのようなギャップを埋めるための基礎的な研究である。研究の目的は、日本における応用人類学の形成とその展開を促進させるための基礎的な研究を行うことである。とくに、政府や NPO などによる開発援助や国際協力の計画作り、実施、評価において人類学者がどのような役割を果たすことができ、また、人類学的な知識や調査方法が開発援助の分野においてどのように活用することができるかを総合的に研究することである。」

＊欧米の開発援助および機関における人類学者・人類学的知識の活用に関する海外調査とワークショップの実施

2004 年度
＊第１回国際開発援助ワークショップ「デンマーク、スウェーデン、日本の開発援助：開発における社会科学の役割を中心に」（代表：岸上伸啓）（2004 年 11 月 6-7 日）
＊国際ワークショップ「ジェノサイド後の社会の再編成 ― 中米グァテマラのケース ―」（代表：関　雄二）（2004 年 11 月 27 日）
＊第２回 国際開発援助ワークショップ「開発とジェンダー」（代表：岸上伸啓）（2005 年 2 月 20 日）
2005 年度
＊研究フォーラム「「歴史と記憶」 ― ラテンアメリカの先住民族と暴力の歴史化 ―」（代表：関　雄二）（2005 年 6 月 11 日）
＊第３回 国際開発援助ワークショップ「開発とジェンダー（２）」（代表：岸上伸啓）（2005 年 6 月 19 日）
＊第４回 国際開発援助ワークショップ「カナダ国際開発庁と世界銀行における人類学者・社会学者の役割：社会評価と参加型開発、社会の安全配慮」（代表：岸上伸啓）（2005 年

11 月 12-13 日）

４．関連科研

基盤研究（Ｂ）田村克己代表「世界の開発援助機関と援助活動に関する文化人類学的研究」(2005-2008)

「本研究は、世界各国の開発庁や国連機関、国際的な NGO や NPO とそれらの援助活動を調査することを目的としている。すなわち、アメリカ、イギリスなど世界各国の開発庁、ワールドバンクや国連環境計画などの国連機関、グリーンピースなどの開発支援 NPO・NGO の目標、基本方針、開発援助プロジェクトとその実際の活動、文化人類学など社会科学が開発援助プロジェクトの立案・実施･事後評価において果たす役割を調査し、比較する。さらに、現地の開発援助活動やそれらの諸影響を現地で調査し、個々の開発援助機関を検討することにより、より妥当な開発援助のための提言を行う。」

５．地域研のプロジェクト：発展途上国の農村開発、熱帯医療、紛争解決など

（５）共同研究会「開発と先住民族」

５－１　目的

世界各地において各国の政府援助機関や NGO による開発援助が実施されている。開発援助は各地の住民の生活の質を向上させる一方で、それによって被害を被っている人々もいる。この研究会では、世界各地で誰が主体となって、いかなる政策（方針）のもとに、どのような開発援助が実施されているのかについて情報を集める。そのうえで、それらの開発援助とそこに住む先住民族や少数民族の問題をとりあげ、国家の中に取り込まれた先住民族や少数民族が開発とどのようにかかわり、どのような影響を受けているかに関して、世界各地の事例に基づいて比較検討する。

館内研究員　信田　敏宏、岩崎　まさみ（客員）、岸上　伸啓

館外研究員　青木　アンヘリカ、石田　慎一郎、大曲　佳世、貝澤　耕一、風間　計博、菅野　美佐子、柴田　佳子、杉田　映理、苑原　俊明、滝村　卓司、立川　陽仁、縄田　浩志、深山　直子、細川　弘明、南出　和余、門司　和彦、吉田　睦

５－２　提案と運営の仕方

１．地域ごとに開発の現状や諸問題に関するミニシンポを実施する。

２．各地域を担当する共同研究員がミニシンポを企画・組織し、特別講師を招へいし、実

施する。
３．その成果は、担当者を編者としてＳＥＲや『国立民族学博物館研究報告』で出版する。
４．第２回は「アフリカ地域の開発援助について」のミニシンポを 12 月 2 日・3 日に実施する予定。
５．今後の予定　１７年度－１９年度(２．５年)
「南・東南アジア地域における開発」、「太平洋州地域における開発」、「ユーラシア地域北方、極東地域における開発」、「北アメリカ地域における開発」、「中南米地域における開発」、「開発と人権問題」、「医療援助」、「総括シンポジウム」

５－３　科研の応募と調査の実施：平成 19 年度科研応募に準備

５－４　開発に関する国際シンポジムと企画展示、データベース作り

（６）参考基本文献
６－１　日本語文献
青柳まちこ編
2000　『開発の文化人類学』古今書院。
足立明
1995　「経済２―開発現象と経済学―」米山俊直編　『現代人類学を学ぶ人のために』, pp. 119-138. 世界思想社。
2001　「開発の人類学:アクター・ネットワーク論の可能性」『社会人類学年報』27:1-33。
池谷和信編
2003　『地球環境問題の人類学』世界思想社。
江渕一公
2000　「転換期の文化人類学の課題と展望―応用人類学と人類学者の役割―」江渕一公著　『文化人類学』 pp. 390-419. 放送大学教育振興会。
大給近達
1994　「開発人類学のすすめ」『民博通信』63:2-16。
カイ、クリストバル
2002　『ラテンアメリカ従属論の系譜』吾郷健二監訳、大村書店。
角田宇子
1994　「開発人類学の視点」友松篤信ほか編『国際農業協力論-国際貢献の課題と展望』古今書院。
菊地京子編

2001　　『開発学を学ぶ人のために』世界思想社。
岸上伸啓編
2003　　『海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究』国立民族学博物館。
国際協力機構国際協力総合研修所編著
2003　　『援助の潮流がわかる本』国際協力出版会。
佐藤仁
2002　　『希少資源のポリティクス：タイ農村にみる開発と環境のはざま』東京大学出版会。
鈴木紀
2001　　「開発問題の考え方」菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』pp.10-31. 世界思想社。
玉置泰明
1988　　「[研究動向]「開発人類学」と「反開発人類学」―「応用」人類学の諸相―」『社会人類学年報』14：177-207。
2003　　「開発人類学再考」綾部恒雄編『文化人類学のフロンティア』pp.93-120. ミネルヴァ書房。
チェルニア、マイケル・M
1998　　『開発は誰のために：援助の社会学・人類学』”開発援助と人類学”勉強会訳、日本林業技術協会。
西川潤編
1997　　『社会開発：経済成長から人間中心型発展へ』有斐閣選書。
フランク、A・G
1978　　『世界資本主義と低開発』　拓殖書房。
松園万亀雄
1999　　「国際協力事業と人類学の接点を求めて」『国際協力研究』15(2)：1-10。
2004　　「家族計画の普及と地域文化」江渕一公・松園万亀雄編『文化人類学』pp.33-43. 日本放送出版協会。

６－２　英語文献

Bodley, J. H.
1988　*Tribal Peoples and Development Issues: A Global Overview*. Mountain View, California: Mayfield Publishing Company.
2001　*Anthropology and Contemporary Human Problems* (4th edition). Mountain View, California: Mayfield Publishing Company.
Chaiken, M.S. and A. K. Fleuret (eds.)

1990 *Social Change and Applied Anthropology: Essays in Honor of David W. Brokensha*. Oxford: Westview Press.

Chambers, Erve

1985 *Applied Anthropology: A Practical Guide*. Eaglewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.

Eddy, E M. and W. L. Partridge (eds.)

1987 *Applied Anthropology in America*. New York: Columbia University Press.

Edelman, M. and A. Haugerud eds.

2005 *The Anthropology of Development and Globalization: From Classical Political Economy to Contemporary Neoliberalism*. Malden, MA: Blackwell Publishing.

Escobar, Arturo

1995 *Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Grillo, R. D.

2002 "Anthropologist and Development." In *The Companion to Development Studies*. Desai, Vandana and Robert B. Potter, eds. pp.54-58. London: Arnold.

Hobart, Mark

1993 *An Anthropological Critique of Development: The Growth of Ignorance*. London: Routledge.

Horowitz, Michael M.

1999 "The Sustainability of Anthropology and Development." *Development Anthropologist* 17(1-2): 10-24.

Kishigami, N. and J. M. Savelle (eds.)

2005 *Indigenous Use and Management of Marine Resources* (Senri Ethnological Studies No.67). Osaka: National Museum of Ethnology.

Long, N.

1978 *An Introduction to the Sociology and Development: Theories, Politics and Practices*. London: Harvester Wheatsheaf.

Matsuzono, Makio

2001 "International Cooperation Activities and Anthropology: problems in Japan's Context." *Technology and Development* 14:5-11.

Nolan, Riall

2002 *Development Anthropology: Encounters in the Real World*. Boulder, CO: Westview Press.

Pottier, J. (ed.)

1993 *Practising Development: Social Science Perspectives*. London: Routledge.

World Commission on Environment and Development
1987 Our Common Future. Oxford: Oxford Press.
Rao, V. and M. Walton eds.
2004 *Culture and Public Action*. Stanford: Stanford University Press.